

授業科目 南アジア文化研究特論	単位 2単位
授業担当者 南真木人	授業期間 前期
<p>授業の題目と概要</p> <p>「ネパールの現代政治と社会的包摂」</p> <p>共産党毛沢東主義派（マオイスト）の制憲議会選挙における第一党という躍進により、ネパールは2008年、王制が廃止され連邦民主共和制に変わった。一時、政権を取ったマオイストは野党に下り、新憲法の制定をめぐる議会の議論はなかなか進展していない。そうしたなかで、社会的包摂の民主主義や連邦共和制という枠組みの中に確固たる位置を占めようと、先住民族やダリット（被差別カースト）、マデシ（タライ地域住民）の人びとは、アイデンティティの政治から対決の政治へと運動を急進化させている。現代政治における社会的包摂の問題群を運動の過程から考察する。</p>	
<p>授業の内容と計画</p> <p>授業は講義と討論で構成する。講義のトピックは以下を予定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ネパールの歴史 2. ネパールの人びと（カースト集団、先住民族、マデシ） 3. カースト社会 4. 開発と近代化 5. 民主化とエスノ・ナショナリズム 6. 民族運動 7. マオイスト人民戦争とその後 8. 連邦民主共和制 9. 社会的包摂 10. 社会運動論 	
<p>使用する参考書、参考論文等： 石井溥編 2005『流動するネパール—地域社会の変容』東京大学出版会。 マンジュシュリ・タパ 2006『ネパールの政治と人権—王政と民主主義のはざままで』（萩原律子・河村真宏監訳）明石書店。 Hutt, M. (ed.) 2004 <i>Himalayan People's War: Nepal's Maoist Rebellion</i>. Bloomington & Indianapolis: Indiana University Press. Karki, A. & D. Seddon (eds.) 2003 <i>The People's War in Nepal: Left Perspective</i>. Delhi: Adroit Publishers.</p>	
<p>成績評価基準</p> <p>講義に広く関連する本を個別に相談して取り上げ、その書評論文（4000字程度）をレポートとして提出してもらい評価する。</p>	

その他の留意事項

Ethnic Activism and Current Politics in Nepal

Today in Nepal, the body of government is transforming into republican or ceremonial constitutional monarchy by rise of Nepal Communist Party (Maoists). In this lecture I will examine how the Maoists had gained political power in the last ten years, paying attention to their backgrounds, process of civil war, and present political conditions from different angles. I will also consider what kind of position ethnic groups and *dalits* (oppressed castes) will acquire in Maoism of Nepal, and how their rights and claims are concerned with current politics on which the Maoists assert influence.